

開催日 2009年12月5日  
会場 會賓楼

財団奨学金・学友委員会  
委員長

山下 勝弘  
(東大阪RC)

財団国際親善奨学生の帰国報告会兼忘年会を、毎年12月にPSC主催で開催しております。今年は、財団学友担当の井上暎夫PGにもご参加いただき、顧問ロータリアン並びに地区の委員などを行っているロータリアンや、次年度出発する国際親善奨学生候補者とPSCメンバーなどで総勢30名での開催となりました。

例年と異なるのは、2月に第3回財団学友の集いを開催しますので、顔合わせも兼ねて、吉川邦英委員長をはじめとする研究グループ交換委員会の委員並びにアルムニ会の皆さまにもご参加いただいたことでした。

帰国報告を行ったPSCメンバー（元財団国際親善奨学生）は、2008-2009年度に留学をした柳楽有里さんと倉内菜穂子さんの2名でした。報告者は2名と少なかったのですが、彼女たちはそれぞれ留学先で貴重な経験をつんできたようです。

留学の本来の目的は学問ですから、国内でできない学問の経験もあったと思います。しかし、報告会で彼女たちが語ってくれたのは、留学先や研修先でお世話をいただいたロータリアンについて

でした。

ロータリー財団（TRF）は2013-2014年度から大きく変わろうとしています。現在の国際親善奨学生の制度はなくなり、新地区補助金を使って地区が単独で選考する奨学生と、グローバル補助金を使う人道的な分野に限定された奨学生の二通りになります。

新しい奨学生の制度については現在検討されている途中であり、最終的にどのようなものになるのか確定的なことは言えません。しかし、当委員会では心配しているのは、新しい制度のもとでは、現在のように留学先で顧問ロータリアンが奨学生のお世話をすることがなくなるのではないかということです。

今回報告のあったように、国際親善奨学生は留学先でロータリアンのお世話をいただき、それを貴重な経験として帰国してきます。今後、奨学金の制度が変わるとしても、留学先でのロータリアンとのつながりだけではなくしてはならないものと、改めて実感いたしました。

